茨城県の経済情勢報告

令和８年 11 月５日

財務省関東財務局水戸財務事務所

本件に関するお問い合わせ先

水戸財務事務所財務課

電話 029-221-3180

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	→

（注）8 年 10 月判断は、前回 8 年 7 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は緩やかに持ち直しつつあり、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	→
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	**緩やかに持ち直しつつある**	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	**緩やかに持ち直している**	→
設備投資	8 年度は増加見込みとなっている	**8 年度は増加見込みとなっている**	→
企業収益	8 年度は減益見込みとなっている	**8 年度は増益見込みとなっている**	↗
企業の景況感	「下降」超幅が拡大している	**「下降」超幅が縮小している**	→
住宅建設	前年を下回っている	**前年を下回っている**	→
公共事業	前年を上回っている	**前年を下回っている**	↘

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。

2. 各論

■　個人消費　「緩やかに回復しつつある」

コンビニエンスストア販売額は前年を下回っているものの、百貨店・スーパー販売額、家電大型専門店販売額、ドラッグストア販売額、ホームセンター販売額はいずれも前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通車、小型車、軽乗用車のいずれも前年を上回っている。このほか、旅行などは一進一退の状況にある。

全体としては、個人消費は、緩やかに回復しつつある。

（主なヒアリング結果）

➢ 売上高は前年同期比で概ね横ばいとなっている。物価上昇を背景に客単価は上昇しているものの、消費者の節約志向は根強く、買上点数は減少傾向にある。また、今年は天候不順により、農産物を中心に仕入価格が上昇している。（スーパー）
➢ 独自の商品は、消費者からの支持により継続的に好調に推移している一方、どこでも販売されている商品は価格のみが競争要因であるため、苦戦している。（コンビニエンスストア）
➢ 家電の販売は全般的に堅調に推移している。7 月は気温も高くエアコンを中心に売上が前年を大きく上回ったが、8 月 9 月は雨が多く気温が低かったことから、前年を少し下回った。（家電量販店）
➢ エアコン関連部品は品薄の影響もあり、主に専門業者向けの需要が継続している。また、頻発している豪雨災害の影響により、土のう袋や掃除道具など水害対策用品も売れている。（ホームセンター）
➢ ガソリン価格の高止まりや車両価格の値上げを背景に、コンパクトクラス車や低価格ハイブリット車などの車種が好調の一方、高級車や車体の大きい車は不調。（自動車販売）
➢ 7 月以降の受注数は、前年同期比・前期比ともに減少している。また、台風や豪雨などの異常気象が相次いだことから、旅行のキャンセルや予約の取り消しが発生しており、売上高の減少につながっている。（旅行）

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

生産を業種別にみると、輸送機械と食料品は減少しているものの、化学や電気機械が増加しているなど、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

➢ 今年の夏は例年に比べて気温が上昇しない日が多く、降雨も長期間にわたって続いたことから、夏場向け清涼飲料水の需要が伸び悩み、生産量は当初計画を下回った。（食料品）
➢ コンビナートの定期修理に伴いプラントの稼働を停止していたが、7 月以降は定期修理が終了し、プラントの稼働が通常の状態に戻ったため、生産量は回復している。（化学）
➢ 中東情勢や物価高騰の影響を受け、原材料であるアルミ地金やエネルギー価格は上昇しているものの、供給不足にはなっていない。仕入価格の上昇分は価格転嫁を進めているが、その影響もあって受注数量に減少がみられる。（金属製品）

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は低下し、新規求人数は増加している。人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

（主なヒアリング結果）

➢ 新卒採用は大卒者と高卒者を募集しているが、応募がないため通年で中途採用を実施している。外国人雇用も進めており、従業員の約 3 分の 1 を外国人が占めるが、依然として人手不足であり、残業や休日出勤により対応している。（製造）
➢ レストラン部門が慢性的に人手不足。募集しても応募自体がかなり少ない状態が続いており、採用後に短期間で辞めるスタッフも多い。過去に勤務していたスタッフに依頼することもあるが、今は対応できていても将来的な不安が大きい。（宿泊）
➢ 製造業の新規求人数は、医療機器やリサイクルなどのプラスチック製造業等で増えており、7 か月連続で前年同月を上回るなど、人手不足の基調は継続している。（行政機関）

■ 設備投資 「8 年度は増加見込みとなっている」（全規模・全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○ 8 年度の設備投資は、製造業では前年比 35.1%、非製造業では同 52.3%の増加見込みとなっており、全産業では同 46.8%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「8 年度は増益見込みとなっている」（全規模）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○ 8 年度の経常利益（除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」）は、製造業では前年比 5.7%の減益見込み、非製造業では同 7.0%の増益見込みとなっており、全体では同 0.7%の増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超幅が縮小している」（全規模・全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○ 企業の景況判断 BSI をみると、前四半期（8 年 4～6 月期）に比べ、「下降」超幅が縮小している。先行きについては、8 年 10～12 月期も「下降」超で推移する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

○ 新設住宅着工戸数をみると、分譲が前年を上回っているものの、持家、貸家住宅が前年を下回っており、全体として前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を下回っている」

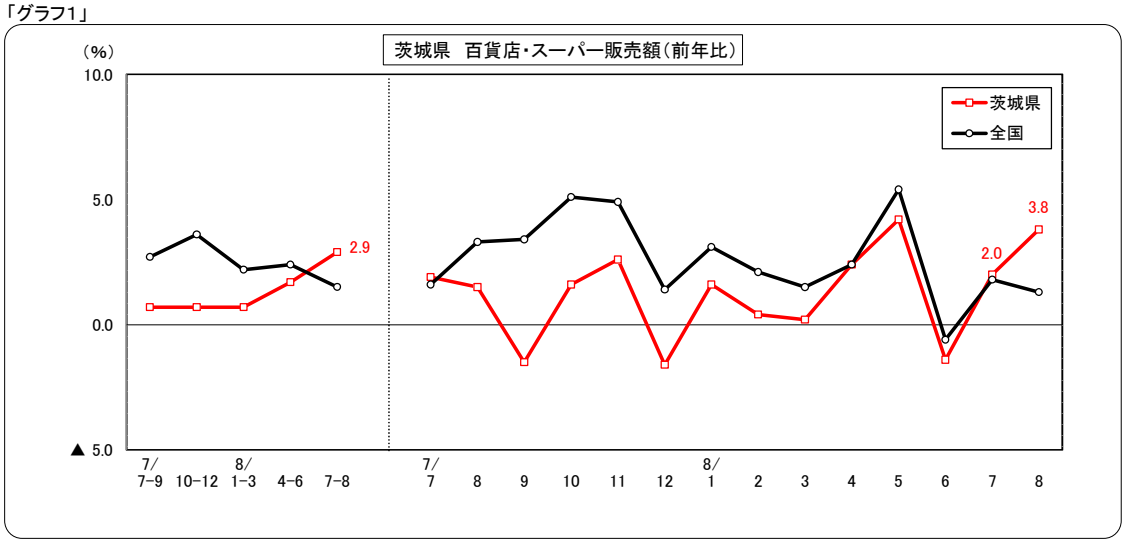
○ 前払金保証請負金額をみると、前年を下回っている。

茨城県の経済情勢報告

資　料　編

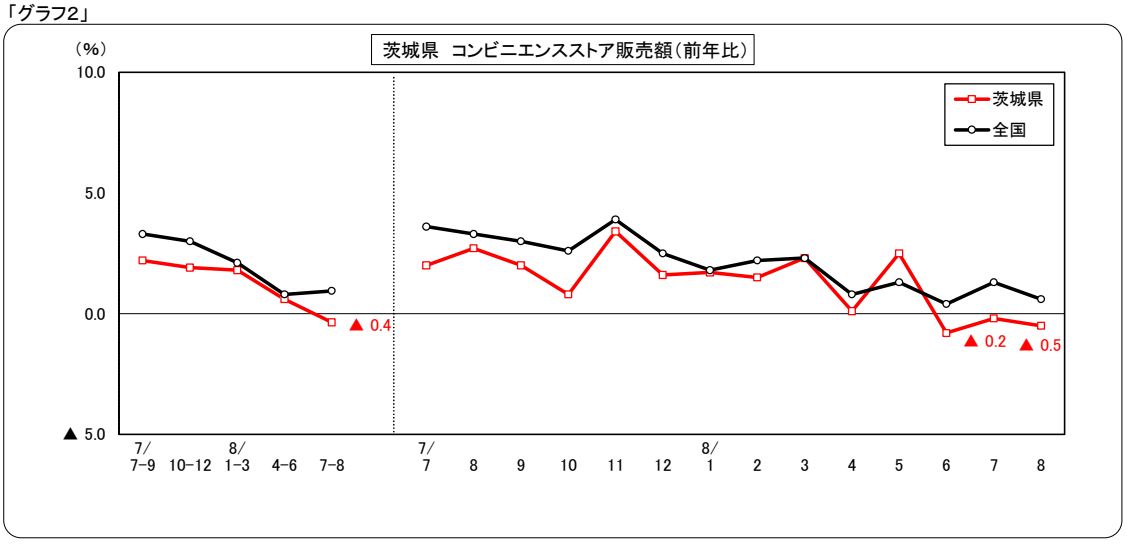
1. 個人消費　緩やかに回復しつつある

「グラフ1」



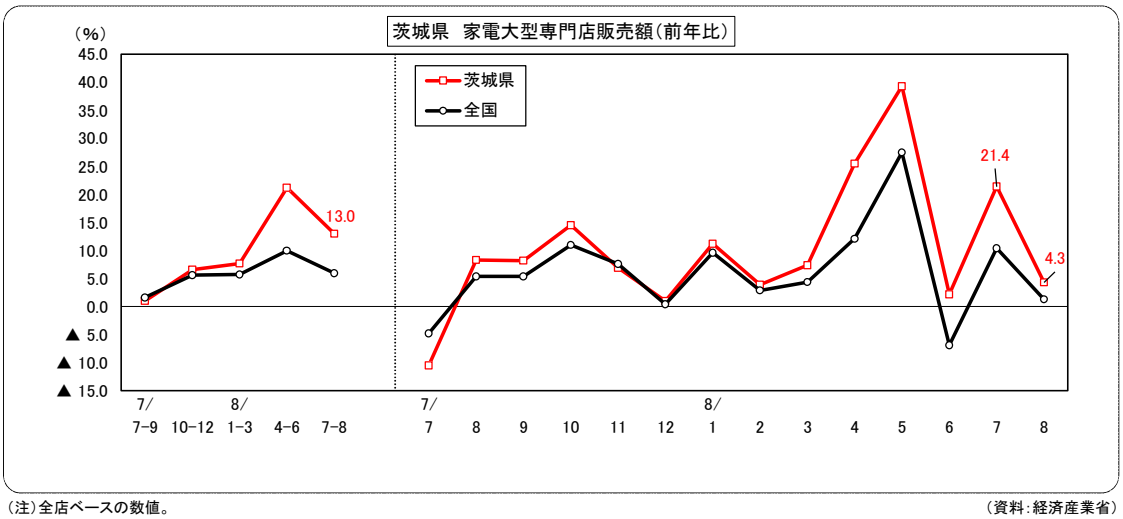
（注）全店ベースの数値。　（資料：経済産業省）

「グラフ2」



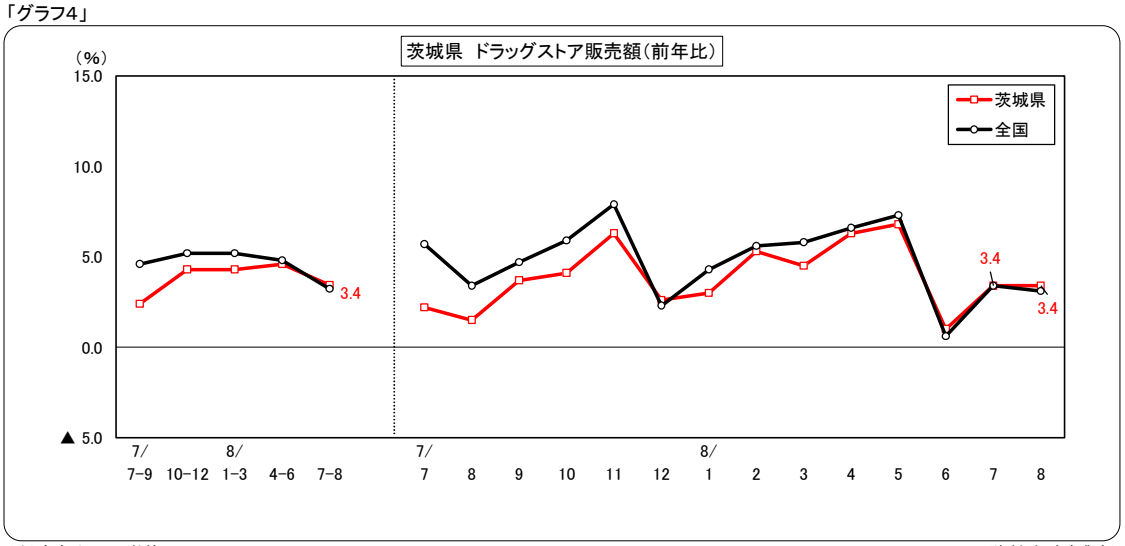
（注）全店ベースの数値。　（資料：経済産業省）

「グラフ3」



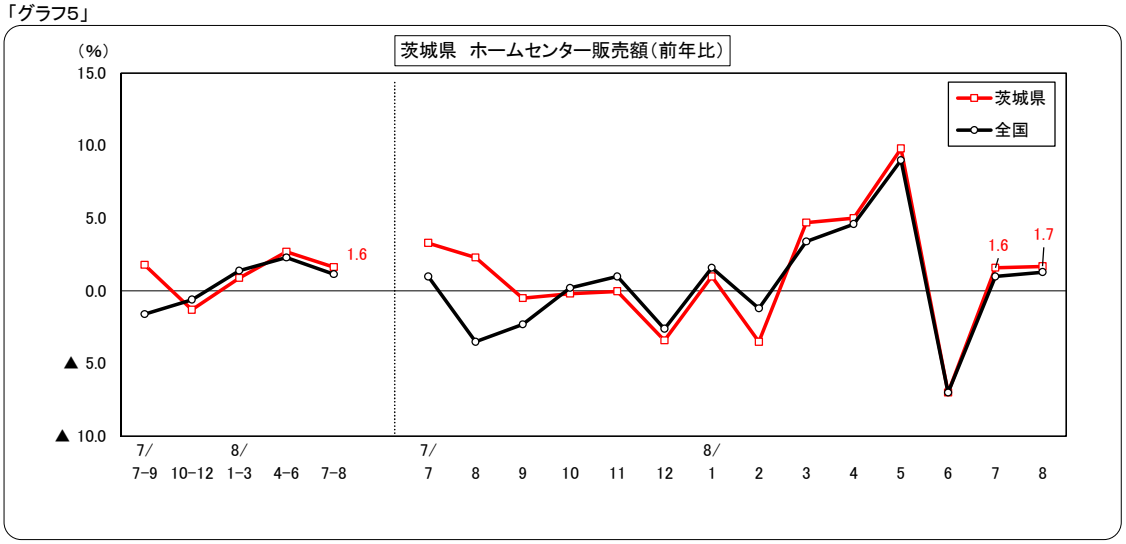
（注）全店ベースの数値。　（資料：経済産業省）

「グラフ4」



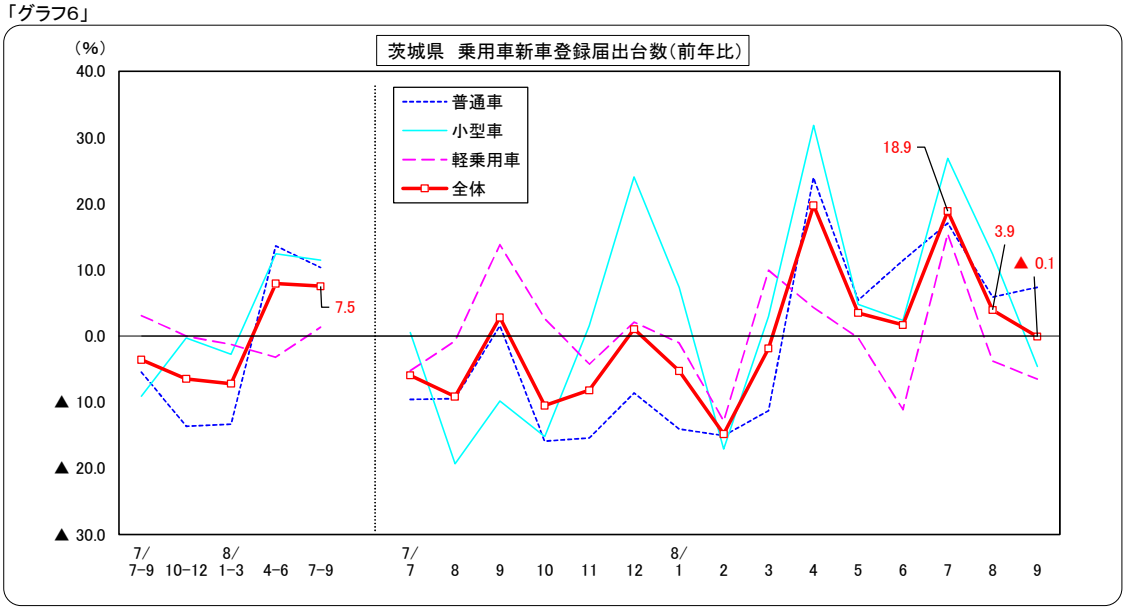
（注）全店ベースの数値。　　（資料：経済産業省）

「グラフ5」



（注）全店ベースの数値。　　（資料：経済産業省）

「グラフ6」

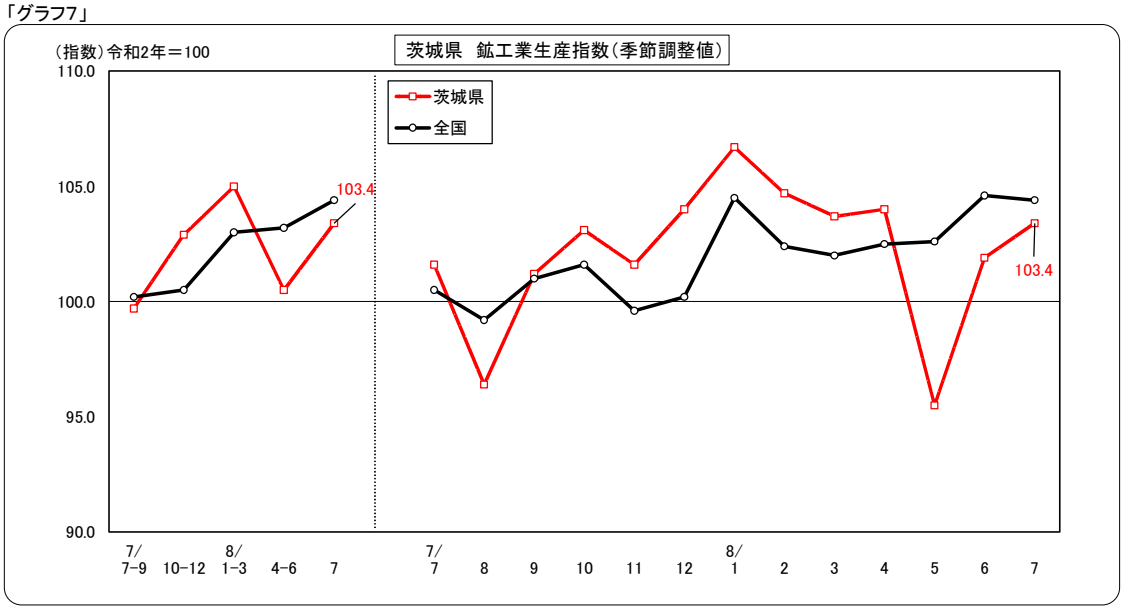


（注）乗用車新車登録届出台数は、ナンバーベースで普通車・小型車・軽乗用車の合計。　　（資料：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会）

2. 生産活動

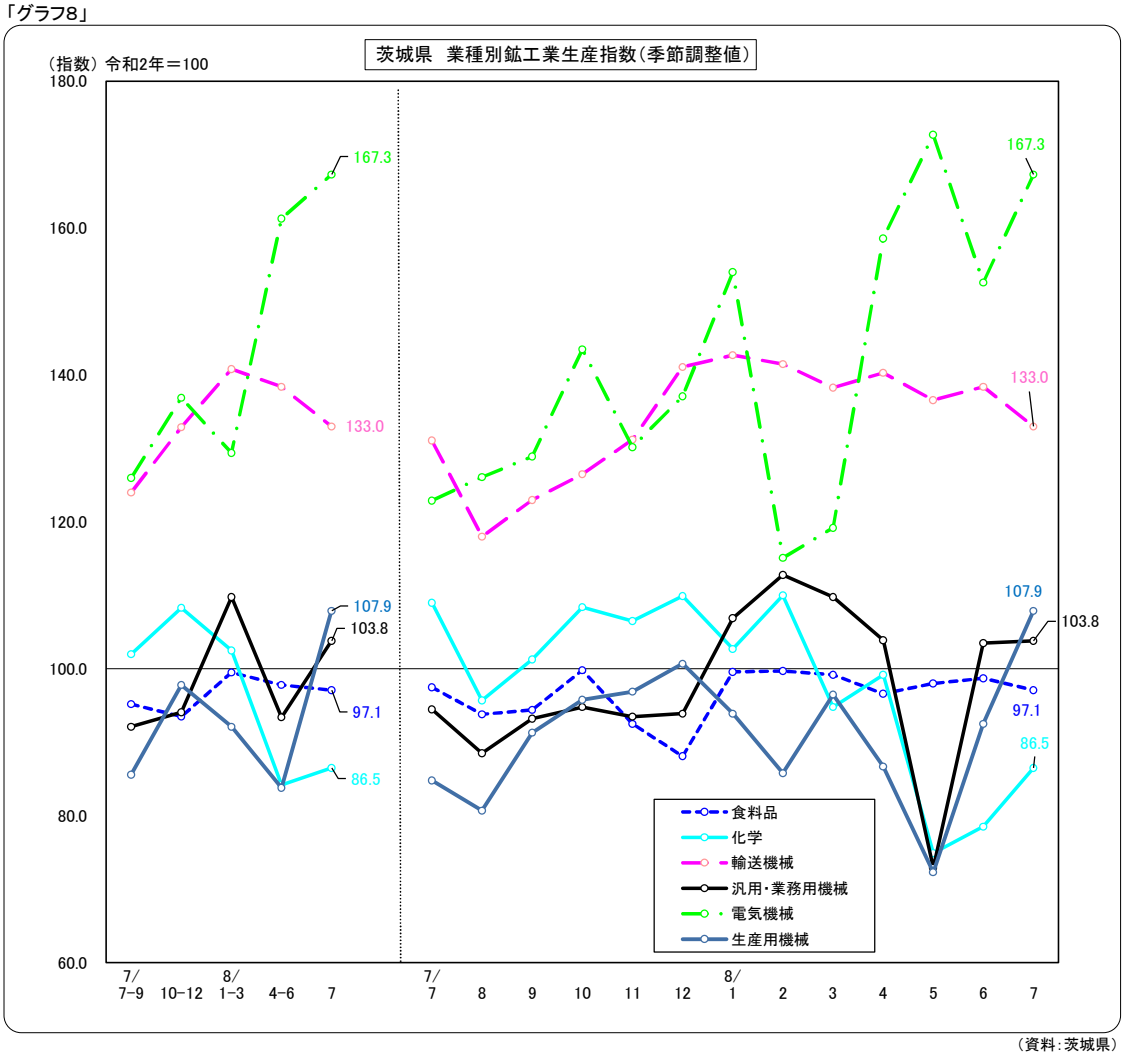
緩やかに持ち直しつつある

「グラフ7」



(資料:経済産業省、茨城県)

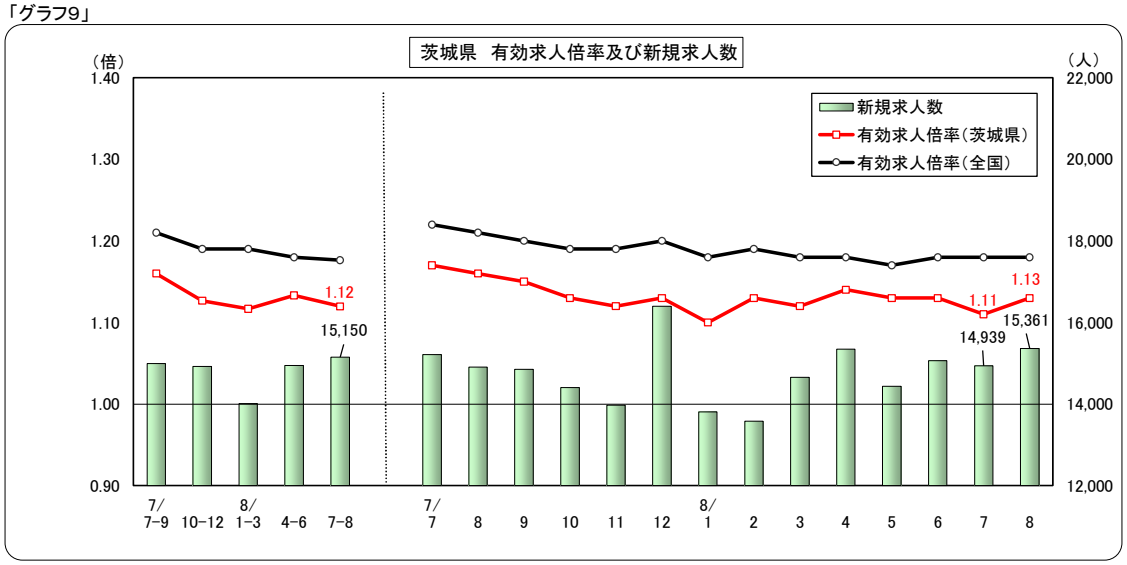
「グラフ8」



(資料:茨城県)

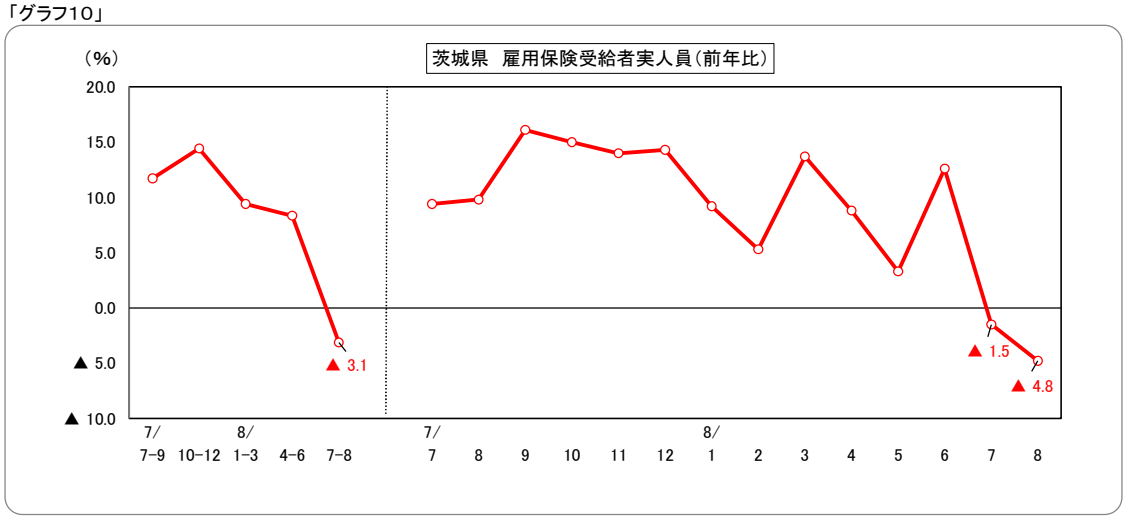
3. 雇用情勢　緩やかに持ち直している

「グラフ9」



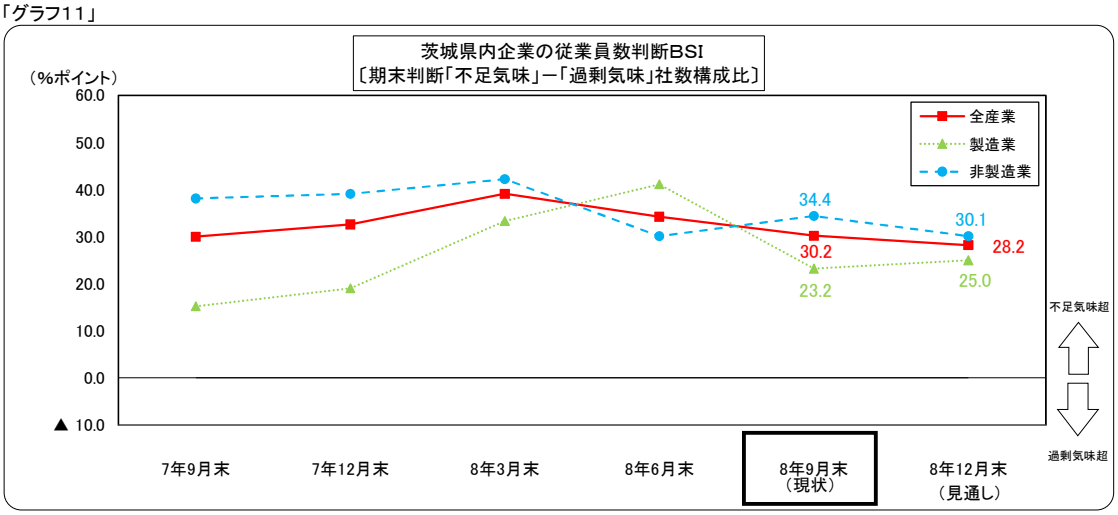
（注）パートタイムを含む季節調整値。新規求人数の四半期及び8年7-8月の値は月当たりの平均。　（資料：厚生労働省、茨城労働局）

「グラフ10」



（資料：茨城労働局）

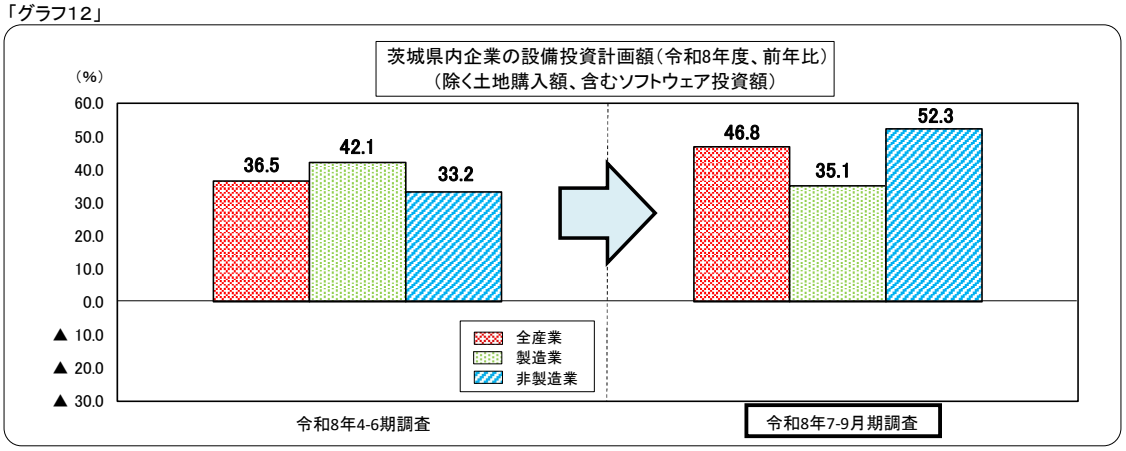
「グラフ11」



（資料：水戸財務事務所「法人企業景気予測調査」）

4. 設備投資　8年度は増加見込みとなっている

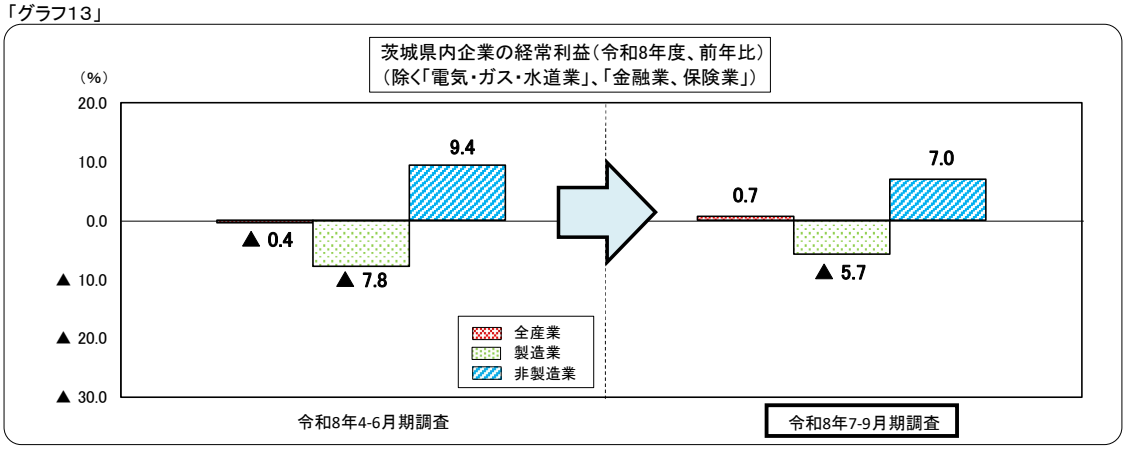
「グラフ12」



（資料：水戸財務事務所「法人企業景気予測調査」）

5. 企業収益　8年度は増益見込みとなっている

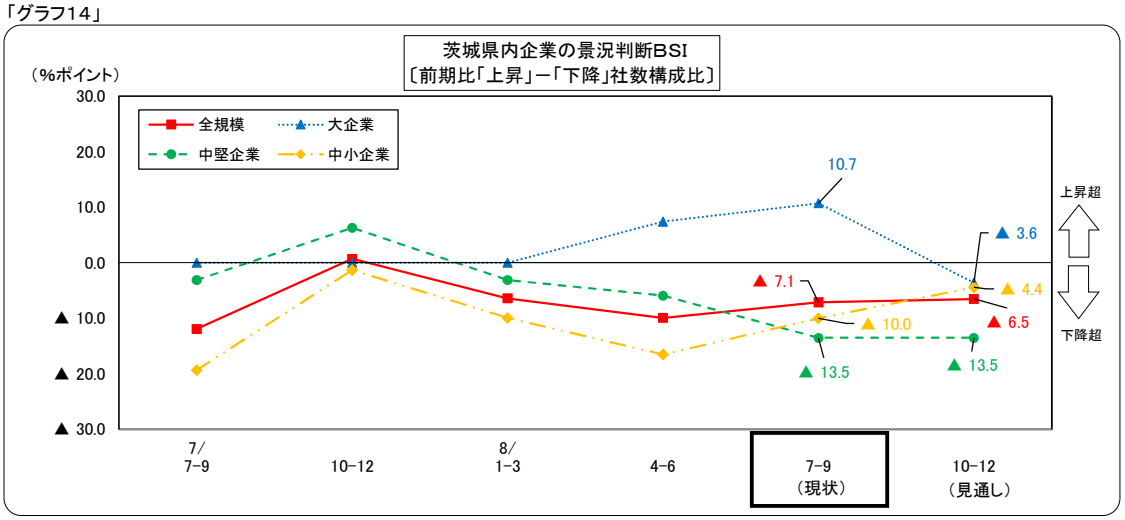
「グラフ13」



（資料：水戸財務事務所「法人企業景気予測調査」）

6. 景況感　「下降」超幅が縮小している

「グラフ14」

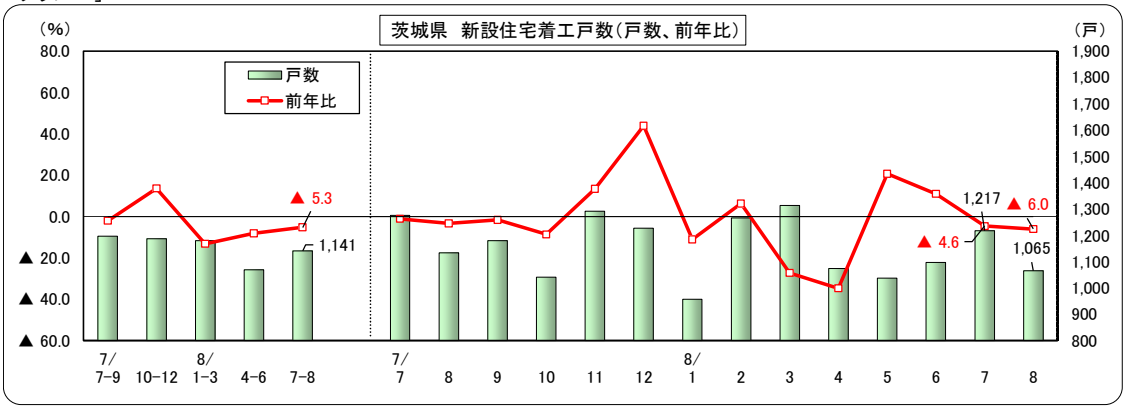


（資料：水戸財務事務所「法人企業景気予測調査」）

7. 住宅建設

前年を下回っている

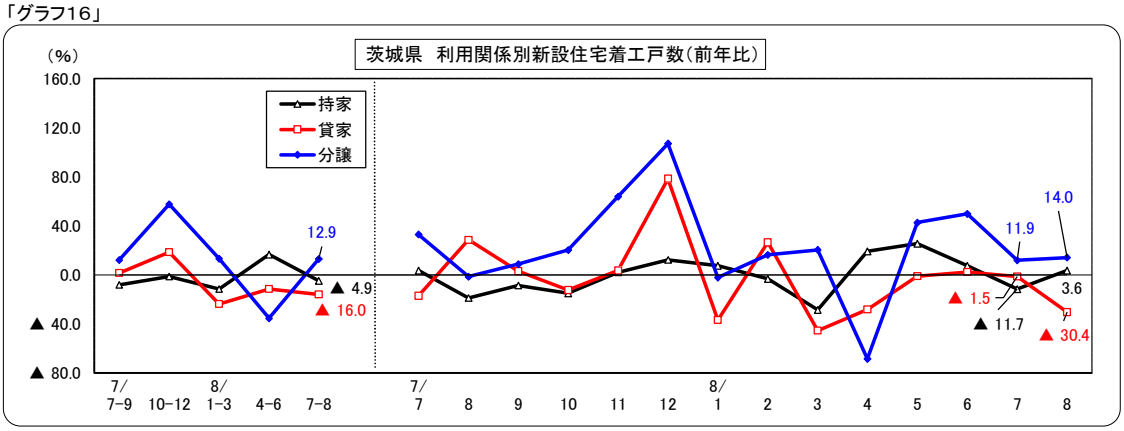
「グラフ15」



(注)住宅着工戸数の四半期及び8年7-8月の値は月当たりの平均。

(資料:国土交通省)

「グラフ16」

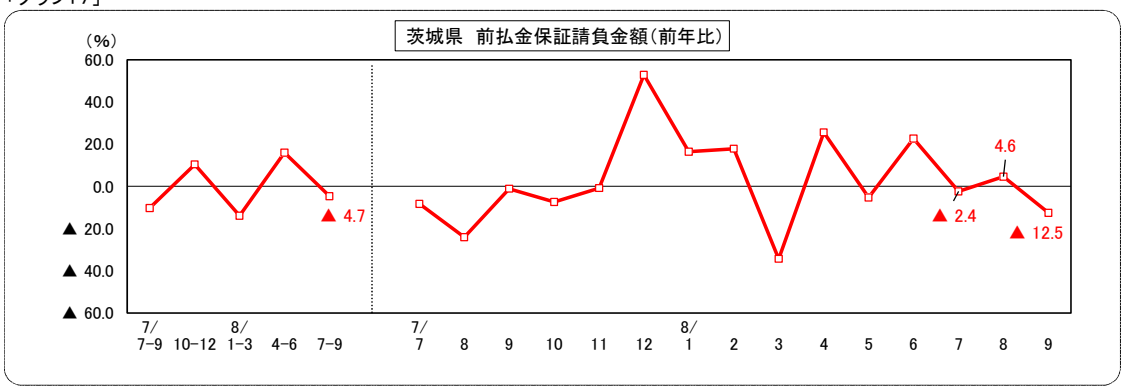


(資料:国土交通省)

8. 公共事業

前年を下回っている

「グラフ17」

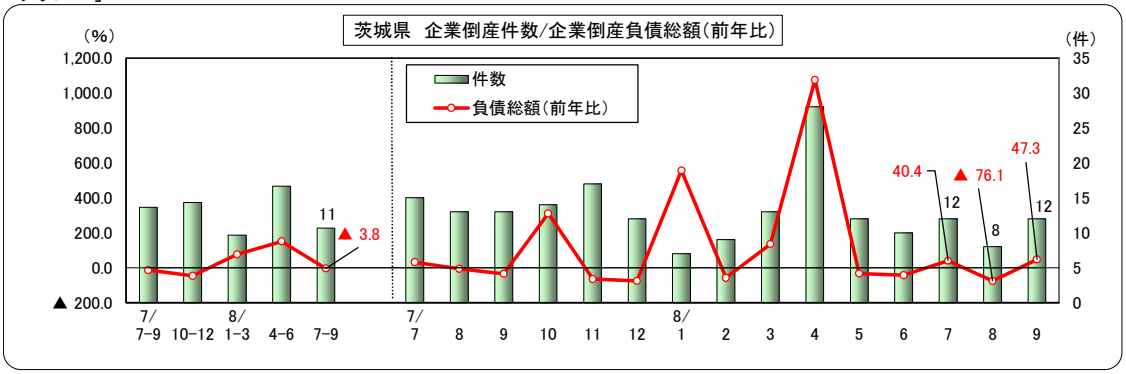


(資料:北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱)

9. 企業倒産

件数、負債総額ともに前年を下回っている

「グラフ18」



(注)負債総額1千万円以上。企業倒産件数の四半期は月当たりの平均。

(資料:㈱東京商工リサーチ)